

教えるから 共に学ぶへ ⑧-1

R7.10.14 (月)
R7.10.2 (木) の3年生音楽の
授業レポート
今治市立菊間中学校
松岡 智子

菊間中学校では、グランドデザインに示したように「学び合い」「聴き合い」「探究的な学習」をキーワードに授業改善を進めています。その第8弾として、松岡が3年1組で公開授業をしました。その様子をお知らせします。

教材について 文化祭発表に向けてクラスで相談して決めた混声三部合唱曲、小田和正の「たしかなこと」です。メロディを知っているポップスを合唱にするのは、読譜力やハーモニー感が十分育っていない者には難易度が高くなります。

目標 全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うことができる。
(ハーモニーが生まれるところを意識して歌うことができる。)

授業の流れ

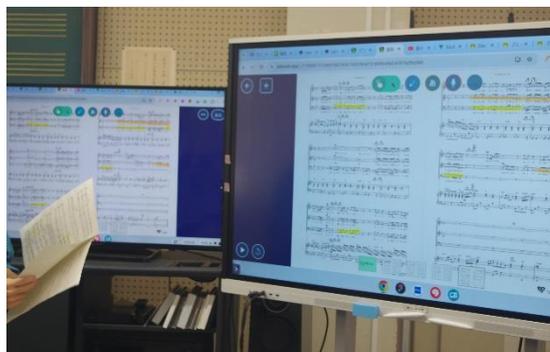
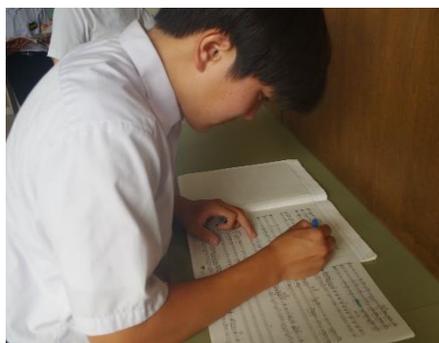
1 ウォーミングアップ

- ・ ハミング
- ・ 混声三部合唱「故郷」

2 音程の取りにくいところを意識して音取りしよう (B課題)

知っている曲の主旋律ではないメロディを歌うのはなかなか時間がかかります。まずは、自分が歌うメロディが、主旋律なのかハーモニーの役割なのか意識して歌うことが大事です。

個々に音程の取りにくいところをチェックし、パートごとに電子黒板にマークし、課題を共有したのち音取り練習をしました。



楽譜を読めない、見ても分からないと思い、楽譜を見ないで聞き覚えで歌うと、音取りに時間がかかったり、なかなか正確に歌えなかったりしますが、音符の五線上での上がり下がりや音符の細かさなどを見たり、自分なりに注意したいところに音程の上がり下がりの矢印を入れたりして、意識して歌うことで音取りが早くなったように思いました。1年時からの積み重ねもあると思います。また、パートリーダーを中心に、部分練習をするなど工夫して練習ができていました。



2 他のパートを聴きながら歌い合わせよう(A課題)

本時は、3回目の音取りです。他のパートを聴きながら歌い合わせるにはまだ音程が不安定でした。自分のパートの役割を理解して練習しているので、さらに気を付けたところを意識しながら歌うことはできて、つられやすいところやハーモニーが生まれるところを再確認できていました。



3 振り返り

- ・ ノートに思いや感想を記入し、できたところや次の課題など発表する。
- ・ できていないところを楽譜にチェックし、ロイロノートに提出する。

今後さらに、話し合い、聴き合いながら発表の日までに表現の工夫をしていく予定です。合唱練習をする過程において得られる、情意面（思いやりや協力など）にも配慮しながら活動し、感動を味わいたいと思います。コロナ禍明けから3年、歌い合わせることができ喜びを感じながら音楽に親しむ豊かな心情を育てていきたいと思っています。